

宮川 宗一郎

県政レポート

Vol.8 2025年10月発行

スポーツの力で、福岡をもっと元気に!

県政レポートをご覧いただき、ありがとうございます。秋も深まり、体を動かすには最も心地よい季節となりました。福岡県では「スポーツ立県ふくおか」の実現を掲げ、これまでラグビーワールドカップや世界水泳といった世界的な大会を積極的に誘致してきました。来年以降も世界卓球などの国際大会が予定されており、スポーツを通じて福岡の魅力の世界へ発信し、地域経済や観光の振興にも大きな効果が期待されています。また、卓球の早田ひな選手をはじめとするトップアスリートの活躍は、県民の夢や希望を大きく広げています。一方で、県内各地で行われるマラソン大会や学校・地域でのスポーツ活動は、健康づくりや世代を超えた交流の場として、私たちの暮らしに欠かせない存在です。スポーツは単なる競技にとどまらず、「地域を元気にし、人と人をつなぐ力」であると改めて感じています。これからも、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりを進めるとともに、国際大会のレガシーを次世代へとつなぐ取り組みを支えてまいります。引き続き、皆さまのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



世界ブレイキン選手権2025

令和7年9月議会の決算特別委員会で、暮らしの課題を質し、改善を求めました。

Next



樋井川の樹木伐採がついに決定!

当選以来2年の活動が実を結びました。

当選以来の2年間、地域の皆さまと共に取り組んできた「樋井川クリーンアップ活動」が、このたび大きな成果につながりました。草木の繁茂によって清掃作業が困難になり、歩行者にも支障が出ていた樋井川沿い(筑肥橋～紅江橋区間)について、笹丘校区自治会長と連携し、県に正式な除草・伐木の要望書を提出。その働きかけが評価され、県主導による伐採が年内に実施されることとなりました。

また、地域の有志が集まり誕生した河川愛護団体「38リバークリーンクラブ」の皆さんが続けてこられた清掃・美化活動も、この成果につながる大きな力となりました。地域一体となった取り組みが行政を動かし、実を結んだことを大変嬉しく思います。私自身、防災・減災や環境整備を専門分野の一つとして掲げて活動してきました。今回の決定は、日頃の活動の積み重ねとともに、こうした政策的な視点を持った働きかけが評価された結果でもあります。

この伐採により川沿いの見通しや安全性が向上し、台風や大雨時の水害リスク低減など、防災の面でも大きな効果が期待されます。これからも専門分野である「防災」を軸に、地域の皆さまと共に樋井川を守り、きれいで安全な地域環境を次世代へと引き継ぐために、継続的に活動を進めていく決意です。



みやがわ そういちろう

宮川 宗一郎 後援会

〒814-0123 福岡市城南区長尾5丁目31-8 有吉ビル202号

TEL:092-836-9738 FAX:092-836-9737

公式サイト <https://miyagawa-soichiro.com>

LINE公式アカウント



公式Instagram



公式サイト



宮川宗一郎後援会では、随時入会のお申し込みを受け付けております。詳しくは公式サイトへ!

地域の声を力に、県政を動かす。

令和7年9月議会の決算特別委員会で、暮らしに直結する課題を質し、県政に改善を求めました。今回は①ひとり親の就労支援 ②青少年のネット利用 ③博多湾の漁業振興を取り上げています。

ひとり親の就業支援をさらに強化

質問① 支援規模の評価について

県では、ひとり親サポートセンターを中心に、就業相談や資格取得支援、託児サービスを提供し、昨年度は7,721件の相談、102件の就職決定、97人の資格取得がありました。県として、この規模をどう評価していますか。

- 3か所のセンターで相談支援やハローワークと連携した就業あっせんを実施しています。相談件数は年々増加しており、今後もSNSや広報紙、子育て支援拠点での周知を強化し、利用者の拡大を図ります。

質問② 安定雇用への支援強化

依然4割近くが不安定雇用です。安定した雇用につなげるための専門的な支援強化に

- 全センターにキャリアコンサルタントを配置。講習会は企業ニーズや受講者の声を反映し、外部講師を活用して専門性を高め、安定雇用につなげています。

質問③ 収入・生活実感と課題

母子世帯の月収は平均15万円台にとどまっています。これまでの取組が生活や教育環境改善につながっているのか、課題認識を伺います。

- 母子世帯の平均月収は15.7万円、父子世帯は24.8万円と増加し、正社員割合も上昇。一方で生活に厳しさを感じる世帯は多く、教育費不足も課題です。引き続き就業支援に取り組めます。

質問④ 企業との連携・工夫

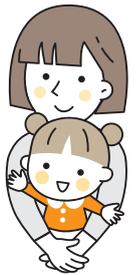
京都府のように公労使一体で成果を上げる例もあります。本県での工夫は。

- AIチャットボットやLINE相談を導入し、相談しやすい環境を整備。さらに、子育てに理解のある企業の求人紹介や合同説明会を通じて就業を支援しています。

質問⑤ 自立支援プログラムの拡充

「福岡県子ども計画」では自立支援プログラム450件を目標としています。達成に向けた具体策は。

- 相談員が生活状況を把握し、資格取得支援や生活支援を組み合わせたプログラムを策定。受講料助成や家賃無利子貸付も利用可能です。今後はホームページやLINEでの情報発信や出張相談を通じ、丁寧に支援を広げていきます。



県の取組で相談件数や資格取得は増えていますが、ひとり親家庭の生活の厳しさや教育費不足は依然深刻です。安定した雇用につながる支援や企業連携をさらに強化し、一人でも多くが自立支援を受けられる体制が必要です。私は現場の声を県に届け、実効性ある施策で暮らしと子どもたちの未来を守ってまいります。

青少年のネット利用と安心できる環境づくり

質問① 犯罪被害から子どもを守るには

近年、闇バイトや違法薬物など、ネットを介した犯罪被害が増えています。これまでの取組状況と成果は。

- ネットリテラシー教育の推進やフィルタリング設定を徹底し、保護者による理由書提出の確認を事業者に立入調査。昨年度は381店舗すべてで適正に処理されていました。

質問② 部局横断的な取組の必要性

児童・生徒の利用時間は増加し、ICT教育も広がっています。県庁全体での連携は。

- 知事部局・教育庁・県警が協力し、学校での啓発や相談窓口の周知を実施。平成26年に協議会を設置し、令和6年には実務者中心の「連絡会議」に改組し課題共有を強化しています。

質問③ 官民協働の推進

東京都ではSNS事業者と連携した取組が成果を上げています。本県の考えは。

- NPOやPTA、通信事業者なども参画し、教育現場でスマホトラブル防止教室を実施。官民が協力した取組を進めています。



質問④ 未就学期からのリテラシー教育

幼少期からの教育の重要性について県の考えは。

- 今年度より「スマホに頼らない乳幼児期の遊び方講座」を開始。子育て支援センターや保育園の職員を対象に講師を育成し、保護者の意識改革を図ります。

質問⑤ 保護者支援と負担軽減

家庭教育に頼りすぎると保護者の負担が大きくなります。行政や地域の支援の在り方は。

- スマホ育児を否定するのではなく、適切な利用を促す内容とし、身近な支援センターで気軽に学べる仕組みを整備します。

質問⑥ 講座を魅力的にする工夫

講座が一方通行で終わらないようにする工夫は。

- 基礎・応用・実践の3部構成で講師を育成。定員50名に対し150名を超える応募があり、オンラインやアーカイブで全県に広がります。



 インターネットは便利で不可欠な一方、犯罪や依存といった新たなリスクも広がっています。県ではネットリテラシー教育や官民協働の仕組みを進めていますが、乳幼児期からの教育や、保護者が気軽に学べる環境整備が一層重要です。私は引き続き、県と官民が連携し、子どもたちが安心して成長できる社会づくりに全力で取り組んでまいります。

博多湾の漁業振興について

【質問の要旨】

博多湾は都市部に隣接しながら多様な漁業が営まれ、豊かな海を次世代へ引き継ぐことが重要です。

議会では、①漁業の現状と水産物、②資源管理や漁場保全の取組、③リン不足による養殖への影響、④福岡市との協力によるリン供給と環境基準見直しの進捗、⑤環境部の対応遅れと責任の所在、⑥ワネルスの理念に基づく豊かな海づくりへの県の姿勢などについて質しました。

【答弁の要旨】

博多湾ではスズキ、アナゴ、エビ類、アワビ、ノリ、ワカメなど多彩な漁業が営まれています。

県は魚礁設置や稚魚放流、藻場保全などで資源管理を支援し、リン不足による養殖被害には定期調査や早期収穫の指導、処理場から回収したリンを漁場に供給する実証実験を行っています。

また、博多湾の環境基準(類型指定)の見直しに向け、市や関係部局と連携し、伊勢湾などの事例を参考に早期結論を目指しています。

長年主体的に対応してこなかった環境部は問題点を認め、今後は「水質保全に加え、生物多様性と持続的利用を重視し、庁内・市と連携して主体的に取り組む」との方針を示しました。

 博多湾は都市に近く多様な水産資源を育む貴重な海ですが、リン不足などで漁業者の経営は厳しい状況です。県と環境部が連携を強化し、主体的な対応を進める姿勢が示されました。私は、漁業者の声を県に届け、「ワネルスの海」の実現と持続可能な漁業の確立に向け、引き続き議会から働きかけてまいります。

自衛隊のリアルを、見て・味わう特別な一日。

福岡県議会議員 宮川宗一郎と行く

第2回 自衛隊見学ツアー 陸上自衛隊 佐賀県目達原基地

第1回は長崎県佐世保で「水陸機動団」と「護衛艦あさひ」を訪問し、大変好評をいただきました。

続く第2回は、佐賀県「目達原基地」での施設見学・昼食体験、さらに太宰府天満宮への立ち寄りも予定しています。

防衛や安全保障を学び、歴史や文化に触れることができる、特別な体験の場として企画しました。

宮川宗一郎は、このように普段なかなか経験できない取り組みを通じて、地域の皆さまとともに理解を深める活動を続けています。今後の活動については公式ホームページでもご紹介していますので、ぜひご覧ください。



県政を身近に感じる場 — 県政報告会

宮川宗一郎は「対話」を大切に、地域の声を県政へ届けるため、毎月、選挙区内各地で県政報告会を実施しています。

会場では、県と市・国の行政機関がどのように連携し、地域課題の解決に取り組んでいるかをわかりやすく解説。参加者からは、防災・教育・福祉など身近な課題に加え、「災害時のドローン・ヘリ活用」「ワンヘルス」「メタバースによる自殺予防」など、先進的な県の取り組みに関する質問や提案も寄せられています。

これまでに長尾校区・片江・別府・堤丘公民館などで開催し、地域ごとに異なる課題や期待の声を直接伺うことで、より現場感のある政策づくりへとつなげてきました。報告会は行政の現状を知るだけでなく、住民の声を政策へ反映させる大切な「双方向の場」となっています。

県政は皆さまの声で動きます。今後も月1回程度のペースで開催を続けてまいりますので、お気軽にご参加ください。



県政活動・地域イベント



全国都道府県議会議員会会長就任式



多々良川浄化センター視察



第2回 若者エスマヤ会



樋井川体験学習



田島校区一斉パトロール



筑豊緑地インクルーシブ遊具広場完成式典

陸上自衛隊で培った力を地域に活かし、誰もが安心できる暮らしを支えます。

名 前 宮川 宗一郎(35歳)
 家族構成 妻 長女 長男
 趣 味 バレーボール、筋力トレーニング、読書、カラオケ
 座右の銘 感謝

圧倒的行動力で
 聞く! 変える! 守る!

- 平成元年12月29日生 福岡市出身 ●笹丘小学校卒業
- 泰星中学高等学校(現・上智福岡中学高等学校)卒業
- 防衛大学校理工学部(建築環境工学科)卒業
- 陸上自衛隊(ヘリコプター操縦士 平成25~令和4年)
 平成28年4~5月 熊本地震における災害派遣
 平成29年7~8月 北部九州豪雨における災害派遣
- 福岡県議会議員(1期目) ●建築都市委員会 副委員長
- 防衛議員連盟 事務局長 ●スポーツ立県調査特別委員会 委員
- 福岡県隊友会 相談役(陸上自衛隊)
- 春日基地協賛会 顧問(航空自衛隊) ●水交会 相談役(海上自衛隊)



お気をつけください!詐欺にご注意を!

城南区でも二七電話詐欺が頻発しています。被害を防ぐため、県では二七電話詐欺対策動画を制作し公開しております!



まもるくんと一緒に、いつでも安心。

防災アプリ「まもるくん」は、避難情報や災害時の最新情報をすぐに確認できる安心のツールです。大切な備えとして、ぜひご利用ください。

